

# 旅のきっかけをつくる靴

—岩手県遠野市を事例として—

宮腰研究室  
G108040 天坂幸紀

## 1. はじめに

映像・通信技術の発達した昨今、遠く離れた美しい景色すら、まるでそこにいるように情報が受け取れるようになった。しかしそれは単なる知識であり、自身の経験となるわけではない。直接見ることこそ旅行の醍醐味といえる。また見る以外に、手に取り、匂いを嗅ぎ、自然の音を聞くなど直接五感で親しむことで本当の経験となるのである。

旅にはいろいろな種類があるが、多くの人は計画をしっかりと立て準備期間を要して出かける。一回の旅行は非日常的な体験であり人生の中でも特別な時間と感じられるものの、準備期間が必要であることから、出かけられない人も少なくない。準備期間は計画や荷造りなどが大半を占める。これらは楽しい反面、その手間を考えると旅行に対し気兼ねしてしまうことも仕方の無いことといえる。行く先のことを想像しながら行う旅の準備は楽しいものだが、道具を厳選し、より簡易に準備を済ますことができ、さらに具体的な旅の楽しみ方が提示されれば旅行者はより軽快に旅を楽しむことができるだろう。

本制作では、それぞれの観光地に特化した荷作りと旅の魅力を旅行者に提案することで、新しい旅行体験のしきみをつくることを目的としている。結果として、旅に気兼ねするユーザに対し、旅に行く気持ちを誘発させ、旅のきっかけを提供することが狙いである。

## 2. 旅行についての調査

旅にはさまざまなタイプがあるが、本制作では一人旅に着目した。旅行者を対象に行ったアンケート調査の結果から、6割を超える人が複数人で旅行していることがわかった(図1)。

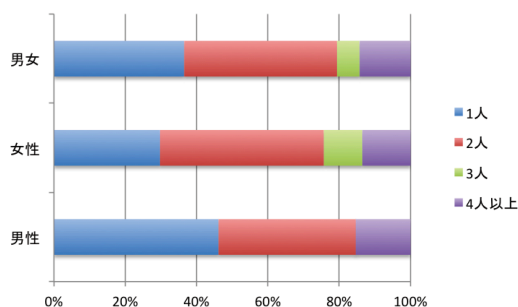


図1 旅行の人数

特に20代～30代の社会人女性は一人旅を敬遠している。昨今の旅行会社ではそうした女性に対して一人旅の旅行プランを多数企画・提案している。本制作ではそうした傾向をふまえ、20代～30代社会人女性を対象とする。これら女性の旅のイメージを明らかにするため、社会人女性10人に対して一人旅についてのインタビュー調査を行った。

その結果、全員が一人旅に対し自由で楽しそうと回答したが、同時に行きたいとは思わないという回答を得た。理由として旅行体験を共有する相手がないために孤独や寂しさを感じるという回答があげられた。一人旅に出ることの妨げとして、一人の寂しさが増えられたことから、次に日常生活において一人であっても寂しくない状況についてアンケートを行った。その結果、「操作に没頭している」や「感情移入している」、「新発見や学びがあった」など何かに熱中している時に一人であっても寂しさを感じないという結果を得た。

## 3. 制作のコンセプト

調査から、本制作が対象とする20代女性是一人旅に興味があるものの、孤独感や寂しさなどにより二の足を踏んでいることが分かった。また、日常的な経験から何かに熱中、没頭するときには一人であってもそうした孤独感や寂しさを感じないことも分かった。特に発見や学び、探索など、自分が持っていない経験を得る機会は、それに対する期待が孤独感や寂しさを凌駕するとの回答が聞かれた。そこで本制作は、旅先で見たことのない風景や景観を見つけることや歴史、文化を知るための方法を提供し、孤独感や寂しさを超えて一人旅に出る機会を提供することを提案する。旅行先での探索、発見、学び、そして振り返りを一つのプロセスとして提供することで旅行への興味を引き出し、新しい体験をさせる。同時にそうした発見を助け、体験するためのアイテムを組み合わせることで、旅行者が事前の準備で感じるであろう手間や煩わしさを軽減し、旅行本来の目的を意識させることが必要である。

これらの目標を達成するために、本制作では旅行のためのアイテムをひとまとめにして旅行者に提供する方法を考案する。通常、旅行のためのアイテムは旅行

